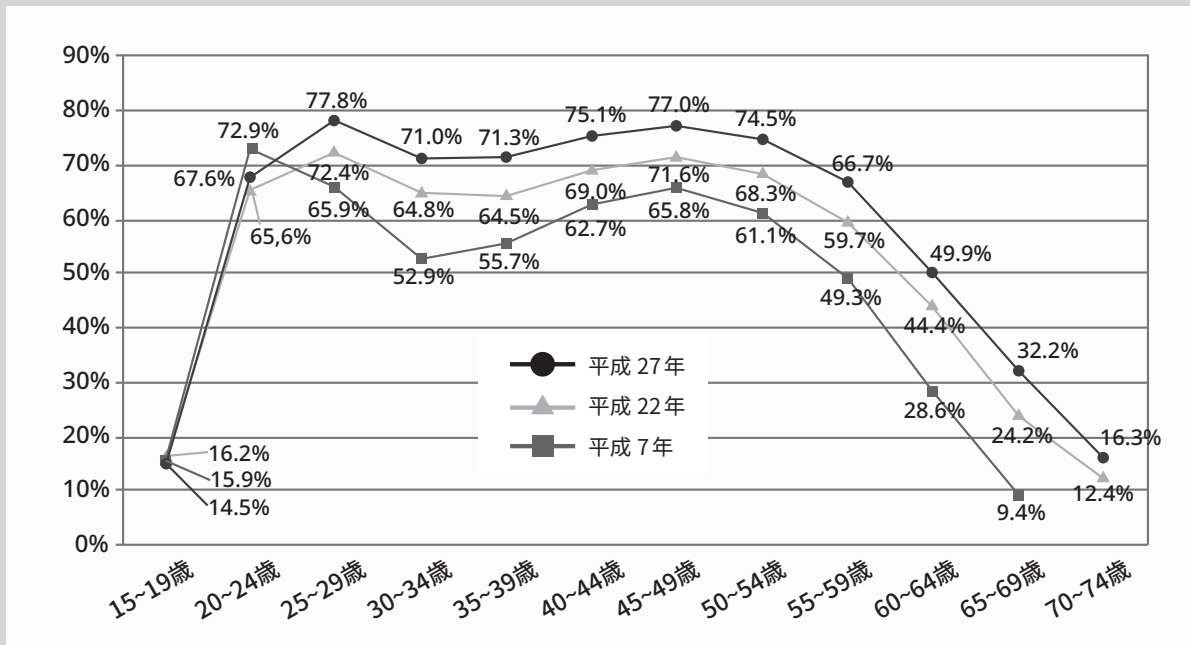


(6) 子どもに関わる社会環境の変化

○平成27年の市の女性の各年齢階級別の労働力率は平成22年と比べ概ね上昇しています。

○児童虐待相談件数は、「早期発見・早期対応」の取り組みにより、増加しています。

【図表18 本市の女性の年齢階級別労働力率】



資料：総務省「国勢調査」

【図表19 児童虐待相談対応件数の推移】

年度	件数	児童人口	児童一人中 の件数	養護相談	養護相談中 虐待の 相談割合	全相談件数	全相談中 虐待の 相談割合
平成27年度	606件	151,027人	40.1件	1,550件	39.1%	6,981件	8.7%
平成28年度	918件	149,052人	61.6件	1,868件	49.1%	6,772件	13.6%
平成29年度	1,139件	147,209人	77.4件	2,112件	53.9%	6,679件	17.1%
平成30年度	1,487件	145,164人	102.4件	2,630件	56.5%	7,243件	20.5%
令和元年度	2,110件	142,874人	147.7件	3,098件	68.1%	7,577件	27.8%

資料：北九州市

- 地域と子どもとの関わりについては、市内の子ども会の加入者数と加入率が低下しています。
- 学校と子どもに関する環境の変化では、長期欠席の児童・生徒数は、増加傾向にあり、全国的にも同様の傾向です。

【図表20 放課後児童クラブ登録児童数】

年度	放課後児童クラブ登録児童数	高学年児童数
H27	10,551 人	2,426 人
H28	11,124 人	2,675 人
H29	11,489 人	2,770 人
H30	12,347 人	3,031 人
R1	12,575 人	3,147 人

資料：北九州市

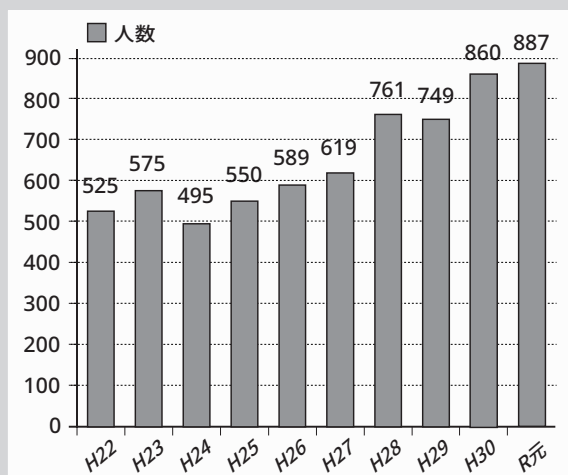
【図表21 市内の子ども会の加入者数・加入率】

年度	(参考) 児童数	加入者数	加入率
H27	49,600 人	8,516 人	17.2%
H28	48,909 人	7,609 人	15.6%
H29	49,009 人	6,851 人	14.0%
H30	48,903 人	6,089 人	12.5%
R1	48,439 人	4,845 人	10.0%

注：加入者数は小学生会員数 加入率＝加入者数÷児童数

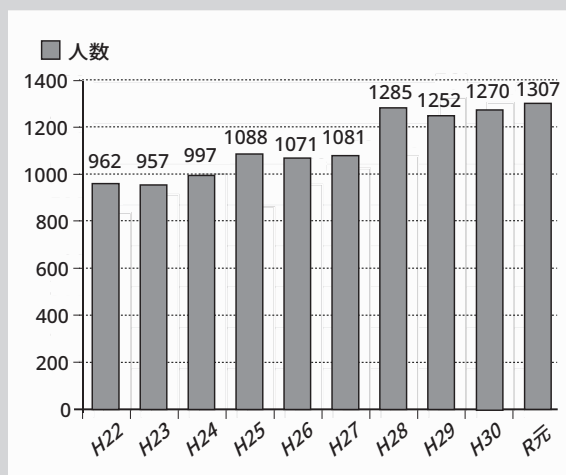
資料：北九州市

【図表22 小学校 本市長期欠席児童数】



資料：北九州市

【図表23 中学校 本市長期欠席生徒数】



資料：北九州市

生涯学習に求められること

- ★家庭教育支援の充実
- ★子どもが健やかに育つ環境づくりに向けた、家庭・地域・学校の連携促進、教育力の向上
- ★地域での多世代交流や体験活動等によるシビックプライド（地域への愛着や誇りに基づく市民意識）の醸成

6. 生涯学習に関する市民意識の現状「令和元年度生涯学習に関する市民意識調査結果より」

(1) 調査の概要

(ア) 調査の目的

現行の「北九州市生涯学習推進計画」（平成28年度～令和2年度）の後継となる新たな生涯学習推進計画を策定するに当たり、一般市民をはじめ市民センター等利用者や関係者など幅広く意見を聴取し、新たな計画に反映するため。

(イ) 調査対象・回収結果

調査対象		配布数	有効回答数	有効回答率
①	住民基本台帳より無作為に抽出した北九州市在住の20歳以上の市民	3,000 件	741 件	24.7%
②	市民センター利用者及び生涯学習センター利用者	1,720 件	1,340 件	77.9%
③	市民センター関係者 （まちづくり協議会会長・市民センター館長・職員）	520 件	465 件	89.4%

(ウ) 調査方法

① 郵送調査

②、③ 市民センター及び生涯学習センターでの直接配布

(エ) 調査内容

①、② 「生涯学習について」／「学習活動について」／「地域活動について」／「地域との関わりについて」／「生涯学習の推進について」／「家庭教育について」

③ 「市民センターで取り組んでいる生涯学習について」／「生涯学習の推進について」

(オ) 調査時期 令和元年7月8日～7月31日

(カ) 調査実施機関

調査・企画：北九州市市民文化スポーツ局生涯学習課

集計・分析：株式会社東京商工リサーチ

(キ) 調査結果の読み方及び注意事項

○図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入している関係で、必ずしも100%とはならないことがある。

○複数回答の設問は回答が2つ以上ありうるため、合計100%を超えることもある。

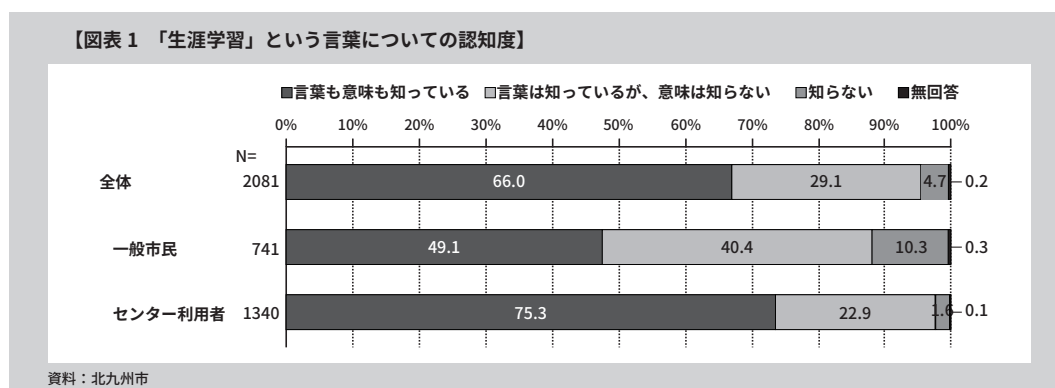
○図表中の「N」とは回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

(2) 生涯学習に関する情報

○「生涯学習」という言葉の認知度の割合は約9割以上

生涯学習の認知度は、全体では「言葉も意味も知っている」が66.0%と最も多く、次いで「言葉は知っているが、意味は知らない」が29.1%、「知らない」が4.7%となっています。

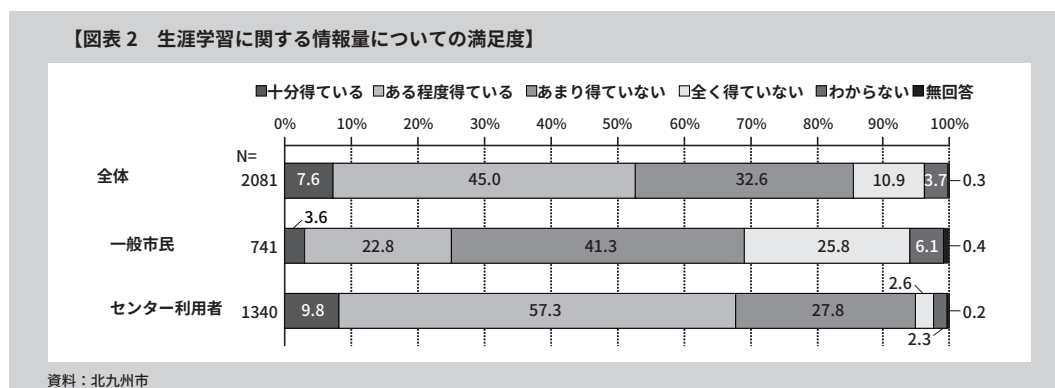
一般市民と市民センター利用者及び生涯学習センター利用者（以下、センター利用者）を比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合は、センター利用者（75.3%）が一般市民（49.1%）を26.2ポイント上回っています。（図表1）



○生涯学習に関する情報を「得ていない人」の割合は約4割

生涯学習に関する情報は、全体では「十分得ている」と「ある程度得ている」を合わせた『得ている』は52.6%、「あまり得ていない」と「全く得ていない」を合わせた『得ていない』は43.5%となっています。

一般市民とセンター利用者を比較すると、一般市民は「あまり得ていない」（41.3%）が最も多く、一方、センター利用者は「ある程度得ている」（57.3%）が最も多くなっています。また、『得ている』は、一般市民（26.4%）で、センター利用者（67.1%）となり、差は40.7ポイントと大きな差がみられます。（図表2）

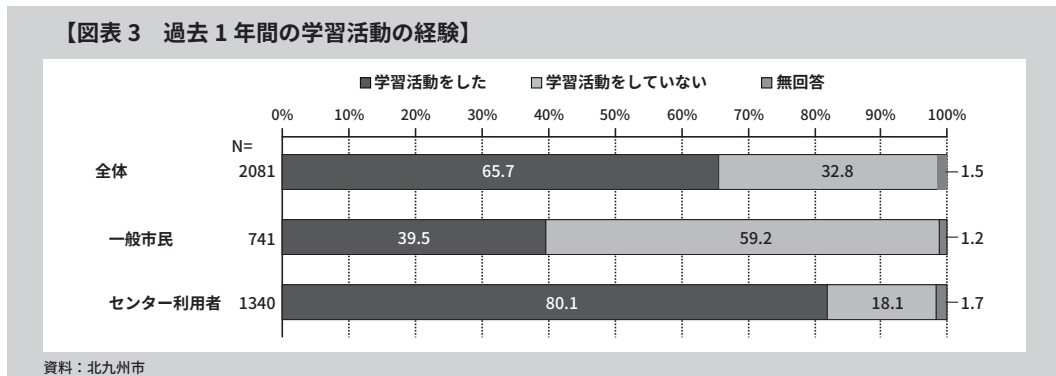


(3) 学習活動への取り組み

○「学習活動をした人」の割合は約7割

学習活動の取り組み状況として、全体では「学習活動をした」が65.7%、「学習活動をしていない」が32.8%となっています。

一般市民とセンター利用者を比較すると、一般市民では、「学習活動をした」が39.5%と4割を下回ったのに対し、センター利用者は80.1%と、倍以上の差となっています。(図表3)



○学習活動をしたことで、「自身のスキルアップ」「仲間や友人ができた」

学習活動の内容は、「健康・スポーツ・レクリエーション（体操、球技、水泳、ハイキングなど）」が49.6%と最も多く、次いで「趣味的なもの（音楽、手芸、園芸、民謡、囲碁など）」が46.2%、「ボランティア活動のために必要な知識・技術」が23.8%となっています。

一般市民とセンター利用者を比較すると、「ボランティア活動のために必要な知識・技術」はセンター利用者（27.1%）と、一般市民（11.9%）と比べ15.2ポイント高く、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得、機械、IT関連など）」は一般市民（19.1%）と、センター利用者（5.3%）と比べ13.8ポイント高いという結果となっています。(図表4、図表4-1)

